

まきびと カルデアの牧人 ～校長だより～ No.16

新年度スタート1ヶ月

令和5年度第1学期が始まってから1ヶ月が経過しました。

連休を終えて、1年生も高校生活に慣れてきたのか、教室にも落ち着いた雰囲気の中で授業が行われています。例年5月の連休明けは1学期中間試験前で部活動も中止になり、放課後の校内が静かになりますが、今年度から大東高校では1学期中間試験がありませんので、放課後も4月とかわらず生徒の声が聞こえています。授業の時間を確保して、日々の授業での学びを振り返りながら、学習をきちんと積み重ねていくことを重視しています。

5月8日から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「5類」に移行したことにより、様々な制限がなくなり、通常の学校生活が3年ぶりに帰ってきました。まだ個人の判断でほとんどの生徒がマスクを着用していますが、手洗いや換気などの注意を払いながら、通常の教育活動を行なっていきます。

しかし、単にコロナ禍以前の学校の姿に戻るのではなく、これまで制限されてきた教育活動を見直し、真に必要なものを回復させるとともに、新しく生み出されてきた多様な教育実践の工夫を取り入れながら、新しい学びの在り方へと進化を図っていかねばならないと考えています。

私たち大東高校の教員も、授業の質を高めるために5月8日に授業改善研修を行いました。ICTを活用してどのような授業の工夫ができるかを考え、生徒一人一人の学習進度や興味・関心等に応じたきめ細かな学習や、多様な意見を共有しながら考えを深める学習といった「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させていくことを目指し、生徒が主体的に学びに向かえる授業を追求しています。

今後は、グループ別学習や生徒会活動での集団活動などの機会を増やし、生徒同士がかかわりの中で学校での生活や学びを充実しながら、生徒が自分と異なる感性や価値観、考え方に多く触れる機会を増やし、協働的な学びや交流の機会を確保していきます。



「カルデアの牧人」とは大東高校の生徒全員が持っている手帳の名前であり、校歌の3番の歌詞に由来します。

「理想の洋は遙かなり 真理の道の遠ければ

あゝカルデアの牧人が 尋ねし星を今更に 中天高くよまんとす」

紀元前7世紀、メソポタミアに新バビロニア王国を建国したのがセム系遊牧民「カルデア人」であり、遊牧の民である彼らは、月の満ち欠けや星の運行などを緻密に観察し、考察することで天文学や占星術を発達させたと言われています。

新しい時代の真理を追究し続けた考える民「カルデアの牧人」のように大東高校の生徒にも真理を追究し続けてほしいと願っています。